【1】補助資料

令和７年度　栗東市水道事業の決算概要及び業務状況

【決算の概要】

●収益的収支（税抜）…※決算書 P.1、3、17、19-22

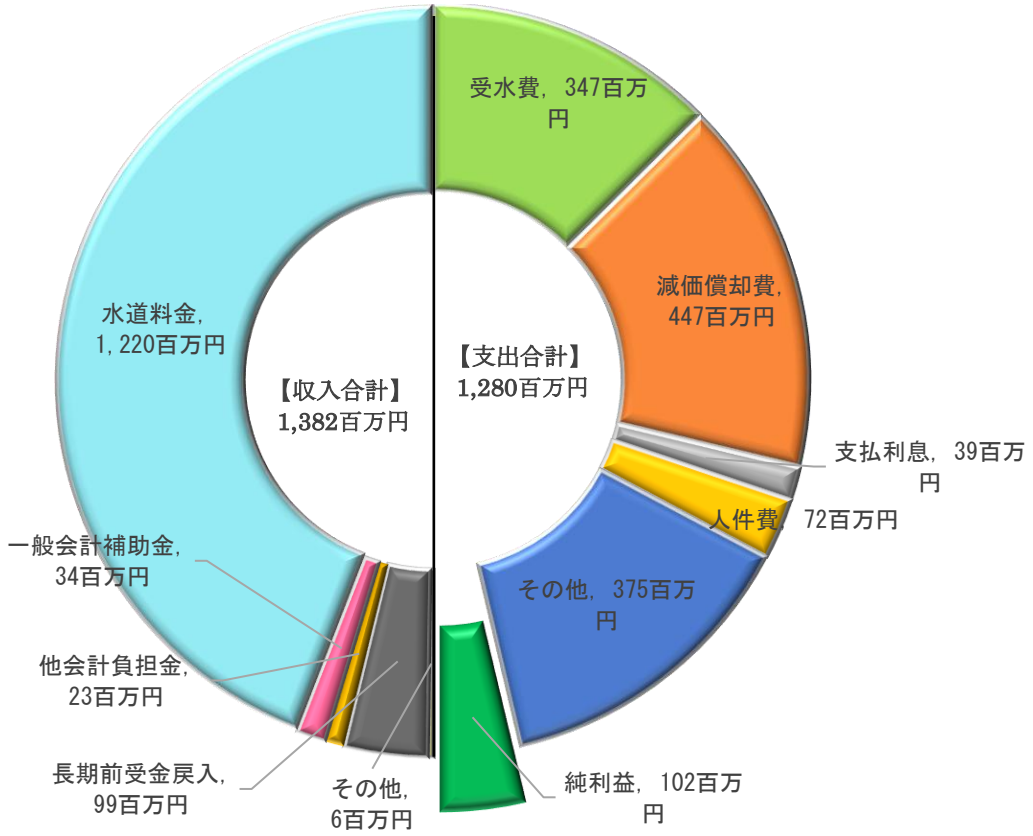
水道水をつくり、ご家庭や企業までお届けするために必要な経費とその財源です。

令和７年度における収益的収入は１３億８，２３４万７，９５０円で、この内給水収益（水道料金）は１２億１，９９２万３，５１６円となり、水道基本料金減免事業を実施したため前年比９８１万８９０円の減となりましたが、減免事業の事業費を他会計補助金として一般会計から３，３６１万９，０５４円を繰り入れました。

対する収益的支出は１２億８，０３３万８，４０３円となり、主な内訳は、減価償却費 ４億４，７０２万５，３５５円（３５％）や、受水費 ３億４，６９４万３１６円（２７％）であり、これらで約６０％をしめています。その他支出は、人件費 ７，２３０万６，５２１円、支払利息 ３，８９０万６，６８５円等です。

これらの収支を差し引きした**純利益は１億２００万９，５４７円**となりました。

【前年度比＋３３２万７，６４４円】



※他会計負担金・・・下水道事業などからの事務委任にかかる経費等の収入。

※受水費　　・・・滋賀県湖南水道用水供給事業より水道水を購入しています。

●資本的収支（税込）…※決算書P.2、23

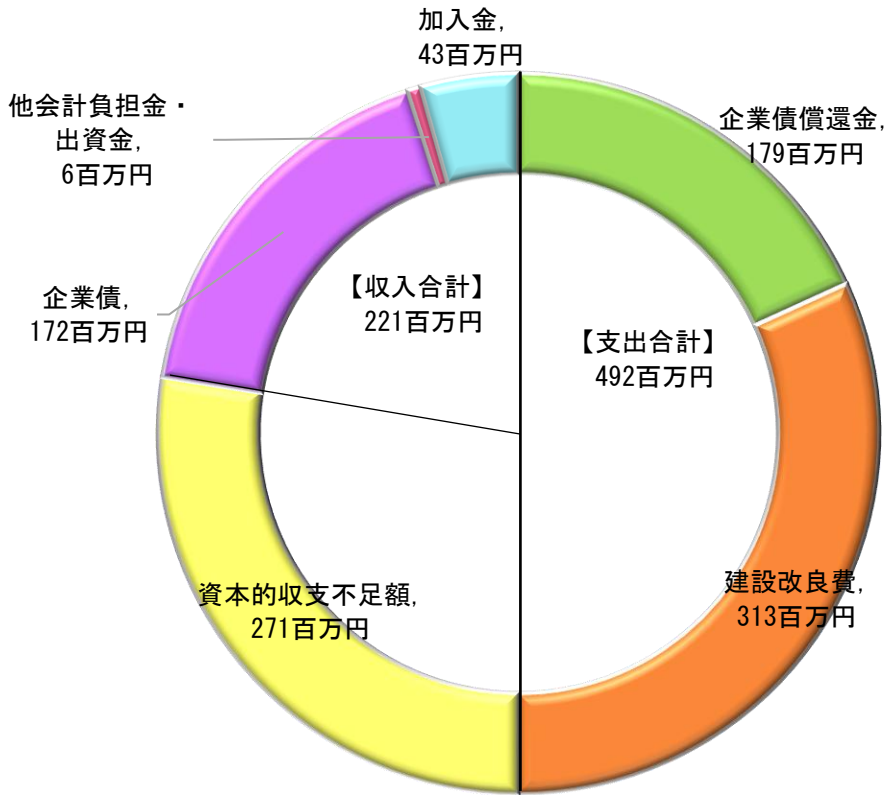
将来にわたって安定的に水道水を供給するため、水源地や配水池、水道管などの水道施設を新設・改良するための経費とその財源です。

令和７年度の資本的収入は２億２，１１１万１，８９２円で、主な内訳は、企業債（借入金）１億７，２５０万円、水道加入金　４，２９４万４，０００円等で構成されています。

資本的支出は４億９，２０７万３，２８１円で、内訳は、建設改良費（施設や管路への設備投資）３億１，３３３万７，２６３円、企業債償還金１億７，８７３万６，０１８円となりました。

資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額（収入と支出の差）２億７，０９６万１，３８９円は、内部留保資金等で補填しました。

【前年度比＋１億８，５５９万７，０８２円】



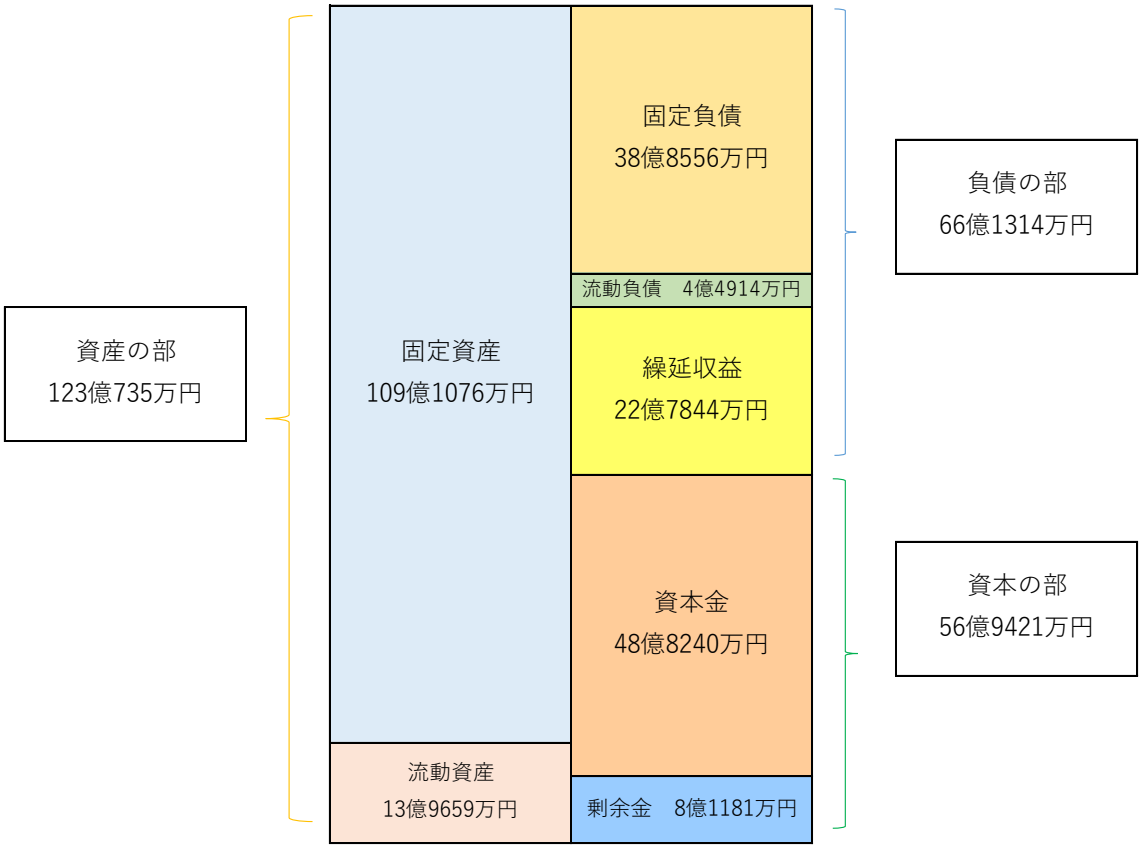
※資本的収支不足額は、内部留保資金等で補填

内訳：損益勘定留保資金　　2億4,838万9,379円

消費税資本的収支調整額　　2,257万2,010円

●貸借対照表…※決算書 P4-5

資本の部１２３億７３５万２，６６０円に対し、負債の部６６億１，３１４万２，１６２円と資本の部５６億９，４２１万４９８円の合計１２３億７３５万２，６６０円となり、貸借は一致しています。



●剰余金処分計算書…※決算書 P6

令和 7 年 9 月議会にて議会の認定に付し、議決をいただきましたとおり、前年度剰余金処分として、建設改良積立金から取崩した 3,000 万円を資本金へ組入れ、未処分利益剰余金から 7,000 万円を建設改良積立金へ積立てました。

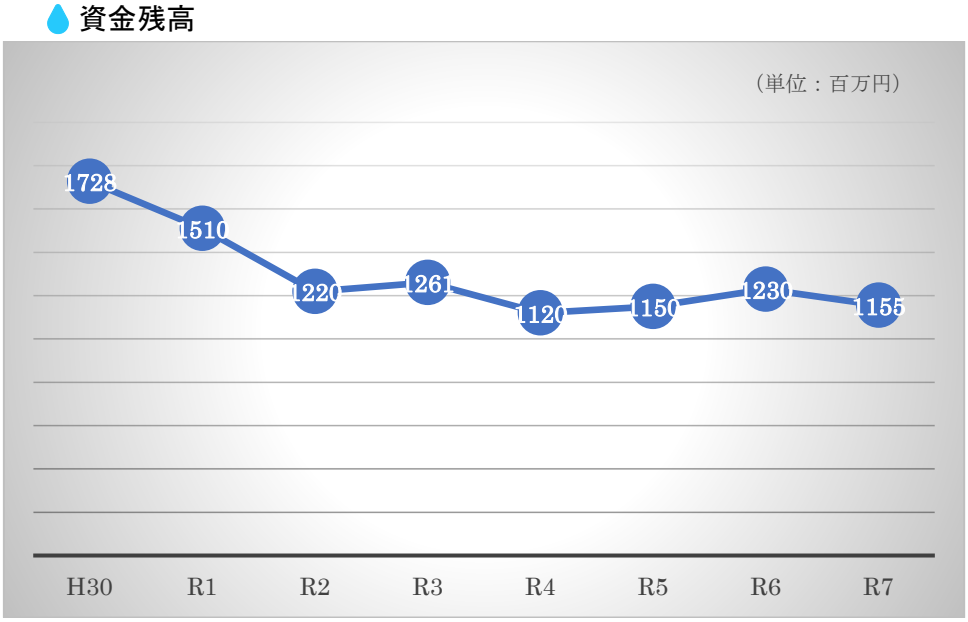
令和 8 年 9 月議会にて議会へ上程いたします、令和 7 年度剰余金処分（案）としましては、末処分利益剰余金から 1 億円を建設改良積立金へ積立てることとしております。

●キャッシュ・フロー計算書…※決算書P.7

一事業年度の資金（キャッシュ）の増減（フロー）を表わす財務諸表で、「営業活動」「投資活動」「財務活動」の３つの活動区分別に表示されます。

令和７年度における、活動区分ごとのキャッシュ・フローは下記の表のとおりであり、前年度末資金残高と比べ７，５１０万２，６３１円の資金減となりました。

活動区分	令和７年度 （千円）	令和６年度 （千円）
Ⅰ．業務活動による キャッシュ・フロー	５２１，７１７	４２０，０７６
Ⅱ．投資活動による キャッシュ・フロー	△５８６，３４６	△５３９，９２６
Ⅲ．財務活動による キャッシュ・フロー	△１０，４７３	１９９，４８０
Ⅳ．資金増減額	△７５，１０２	７９，６３０
Ⅴ．資金期末残高	１，１５４，９１５	１，２３０，０１７



●事業報告、経営指標及び業務状況…※決算書 P.11-13、16

令和７年度の水需要は、事業用の使用水量が増加したことにより、総有収水量は前年度より微増となりました。

事業面では、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、水道基本料金を 10 か月間、6.7%減免する事業を行いました。また、有収率が低下傾向にあることから、衛星画像解析による市内全域の管路漏水調査を実施しました。

経営指標につきましては、経常収支比率は健全経営とされる 100%を上回り、料金回収率も、事業に必要な費用を給水収益で賄えている状況とされる 100%以上を維持しています。

管路経年化率につきましては、今後、老朽管路の割合が増加することから、引続き計画的な管路更新を行ってまいります。

💧経営指標

	令和５年度	令和６年度	令和７年度
経常収支比率	９８．４９％	１０７．７６％	１０７．９４％
料金回収率	９５．６３％	１０５．９２％	１０３．５５％
管路経年化率	１６．８０％	１８．５３％	１８．９４％

※経常収支比率・・・経営の健全性を示す指標。１００%以上で健全経営とされる。

※料金回収率　・・・料金水準の妥当性を示す指標。１００%で事業に必要な経費を給水収益で賄えている状況とされる。

※管路経年化率・・・法定耐用年数を超えた管路の割合を示す指標。

💧業務状況

項　目	令和７年度	令和６年度	増　減
年度末給水人口（人）	７０，１３５	７０，２５３	△１１８
普及率（%）	９９．９	９９．９	－
年度末給水件数（件）	２０，３３１	２０，２０５	１２６
年間総配水量（m3） （配水池から送り出した総水量）	９，２５６，２３７	９，１４９，２６６	１０６，９７１
年間有収水量（m3） （水道料金の対象となった水量）	８，１６２，４７３	８，１１０，４４９	５２，０２４
有収率（%） （年間有収水量÷年間総配水量）	８８．２	８８．６	△０．４

●給水原価と供給単価（税抜）…※決算書 P. 16

前年度に引き続き、供給単価が給水原価を上回りました。

水道料金減免事業の影響により給水収益が減少したため、前年度より供給単価が安くなりました。

	給水原価	供給単価
令和７年度	144 円 34 銭	149 円 46 銭
令和６年度	143 円 14 銭	151 円 62 銭
令和５年度	138 円 12 銭	132 円 08 銭

※給水原価　・・・　水道水１㎥をつくるために要した経費。

※供給単価　・・・　使用者の皆様からいただく１㎥あたりの水道料金の平均単価。

●企業債の状況…※決算書 P. 18

施設の耐震化や老朽管更新等のため、借入残高は増加傾向です。

